

平成 24 年度第 1 回「関西のブランド力向上推進有識者委員会」
議 事 録

■■ 議 事 次 第 ■■

日時：平成 24 年 11 月 26 日（月） 13:00～14:30

場所：大阪合同庁舎一号館 新館 3F A 会議室

議事次第：

- 1.開会
- 2.主催者挨拶
- 3.座長挨拶
- 4.議事
 - (1)「はなやか関西～文化首都年～2013」のテーマについて
 - ①コア事業および実施主体の応募状況と内容説明
 - ②テーマ(コア事業・実施主体・実施内容)の審査および決定
 - (2) その他
5. 閉会

■■ 議 事 要 旨 ■■

1.開会

2.主催者挨拶 伊藤英隆 近畿地方整備局副局長

- ・本日、25 年度の取組テーマを決めていただきたい。

3.座長挨拶 橋爪紳也 大阪府立大学特別教授

- ・EU 統合の際、文化的に各地域の個性を大切にしようという運動があり、それを日本、関西で展開できればよいと考えたのが「文化首都圏」である。
- ・たとえばフランスのリール市は産業都市だったが、文化首都のイベントを契機に文化面でも地域の拠点となった催しを通して都市がガラッと変わることを確認してきた。関西も事業を推進するほどに変わっていくようにと、願っている。今日のこの委員会でぜひ 25 年度のテーマを決めたい。

4.議事

(1)－①コア事業および実施主体の応募状況と内容説明 事務局より応募状況説明

- ・コア事業の応募は、関西広域連合が事務局を担当している「KANSAI 国際観光 YEAR2013」、千玄室や梅原猛、瀬戸内寂聴らが呼びかけ人で公益財団京都文化交流コンベンションビューローが事務局の「古典の日推進委員会」主催の『『古典』～ゆかりの地を訪ねて』、奈良県の「記紀万葉プロジェクト」の、3 件あった。

- ・3件とも「はなやか関西」のテーマやコア事業としての適性がある。
- ・関西の本物文化のテーマとしては、前者が「食文化」、後2者が「古典」で、テーマは2つと考えられる。
- ・前者は、「KANSAI 国際観光 YEAR2013」実行委員会が組織されているため、「はなやか関西」自前の実行委員会を組成せず、同委員会や個別取組を支援することになる。

(1) ①-②テーマ(コア事業・実施主体・実施内容)について検討

橋爪座長

- ・いまユネスコ世界遺産で日本の和食が認められるか審査中だ。

河内委員

- ・古典という思い浮かぶのは文学と芸能だが、日本の近現代文学がこのごろ世界的に翻訳されて評価を得ている。これらは翻訳されたからこそ。古典は各地域に文学館もたくさんあるので、文学館サミットなどでもできる。「古典」より「文学」のほうが、くくり方としては良い。
- ・一方、食文化は的を絞りやすくタイムリーではないか。自分としては、テーマ選択はやや食文化に傾いている。

坂上委員

- ・食文化なら今までの流れをまとめることもできる。供給者、需要者、いろんな人が参加できる。体制もオール関西なので、将来的には経済効果も得られるし、水産ブランド化も期待できるから、食文化が良いと思う。
- ・古典はしぶい。

千田委員

- ・はじめから食文化に傾いたようなので、不本意である。
- ・テーマを食文化にすれば、事務局をしなくて良いという“手抜き”の考えがあるのは“逃げ”の姿勢だ。
- ・しかも、食文化のコア事業「KANSAI 国際観光 YEAR2013」は関西広域連合がやっている。そっちに任せたらよい。広域連合に入っていない奈良県の館長として、撤回して欲しい。食文化をやるなら、広域連合の会議に出なくてはならない。食文化をやるなら、私は今すぐ退席する。出席者に対して失礼だ。
- ・関西文化首都圏という事業をやる気がないなら、やめなさい。また、500万円程度の予算というもの、おかしな話だ。

吉田課長

- ・食文化をテーマにすれば実行委員会をつくらないということについては、事務局の手抜きという考えではない。委員会は運営の課題ととらえている。

千田委員

- ・それは詭弁だ。「KANSAI 国際観光 YEAR2013」に立派な実行委員会があるなら、それに任せればよい。「はなやか関西」は自分の頭で考えたことをやるべき。文化首都圏という独自性を出すなら「KANSAI 国際観光 YEAR2013」と離れるべき。
- ・テーマの応募が少ないのなら、応募してきていない府県に出かけていき、応募を促すべき。広域連合に入っていない奈良県の立場を考えて欲しい。自分の立場として、認められない。

堀井委員

- ・「古典の日」は毎年11月1日にやると考えて良いのか？
- ・奈良県の記紀万葉プロジェクトは10年先までやっていく地域活性化事業。奈良県はこのプロジェクトを契機にがんばろうという意気込みを感じている。しかし、25年度事業として取り組むテーマなのだろうか？
- ・食文化のコア事業となる食博は4年に1回、来年4月に開催される。25年度事業としては、食文化はタイミングがよく、有力な候補と思う。
- ・「KANSAI 国際観光 YEAR2013」については、広域連合は構成メンバーの一員で、主催者ではないと、理解している。しかし、食文化をテーマとした場合、なぜ「はなやか関西」の事務局が不要となるのか、理解できない。
- ・魅力あるまちや地域を見つけて、関西の食文化を盛り上げる両輪としてやればよい。

村田委員

- ・堀井さんと同意見だ。やはりタイミングとしては、食文化。
- ・記紀万葉プロジェクトは期間が長いので25年度事業でなくてもよい。
- ・「はなやか関西」は続けていく、みんなで作っていく、ということになればいいと思う。その中で、広域連合、経済団体、奈良県、三重県がやることがあると思う。

橋爪座長

- ・委員は食に傾いているが、「はなやか関西」として実行委員会の独自性は必要だ。

村田委員

- ・「KANSAI 国際観光 YEAR2013」は一年限りの事業か？

京都府委員

- ・来年1月から12月までである。「KANSAI 国際観光 YEAR2013」は、奈良県も三重県もメンバーに入ってもらっている。

千田委員

- ・「人形浄瑠璃」のテーマにしても、“徳島で文楽イベントがあるからこれに乗ろう”——こういう考え方に対する疑問がある、というのが本音だ。
- ・この委員会が関西が文化首都となっていくのをリードしていくという考えなら、“あるものに乗る”というやり方を改めるべき。
- ・関西の歴史の古さを考えると、古典を見直すべき。
- ・食文化は文化首都とは別のモチベーションが働いているように感じる。出来レースだ。

橋爪座長

- ・はなやか関西のコア事業とはそもそも何ぞや。「本物の関西」を連携してアピールすることが原点だったはず。しかし実際は、コア事業を広域がサポートするというスキームで今までやってきた。
- ・我々はテーマを決める委員会なので、どのような内容かは実行委員会で決めるもの。別の話だ。

河内委員

- ・私はテーマが古典になるのではないかと予想して、この会議にやってきた。
- ・伊丹市は田辺聖子さんの助言を容れて古典文学で地域活性化を進めているし、柏原市は万葉の古歌でランドマークをつくっている。また伊賀上野は「芭蕉」を掲げるなど、古典文学を地域づくりに活用している事例は奈良・京都だけでなくいっぱいある。

- ・食文化をテーマとするなら、今までの食博にないことをやらねばならないから、余計に知恵がいる。

橋爪座長

- ・「KANSAI 国際観光 YEAR2013」は関西広域連合から提案されたもの。自分も関西広域連合に関わっているから、意見を言いにくい。
- ・今日の委員会でまとめるのは難しいのではないかな。

伊藤副局長

- ・提案を出してない県にも意見を聞き、再度テーマを練り直してやるということで、どうか。

坂上委員

- ・理想だけを追ってはならないと思う。もう 12 月に近いし、今テーマを選べばよいのではないかな。もともと「はなやか関西」は、地域を選ぶという考え方ではない。

堀井委員

- ・「はなやか関西」が一地域に限定することではないと承知しており、「茶の文化」は集合体としてやった。「はなやか関西」では、地域がいくつか集まり連合体、集合体としてやっている地域を探すべき。

千田委員

- ・近畿地方整備局は自主性を発揮して、実行委員会をしっかりとやることだ。
- ・委員会ではテーマを出す会合がないのも問題だ。
- ・事務局は、自治体への問い合わせする場合、足を運ぶなどもっと一所懸命にやって欲しい。
- ・今日の委員会は心外である。
- ・結論を出すのなら「古典と食の歴史」など、食文化と古典をうまく組み合わせたらどうか。

橋爪座長

- ・結論は座長預かりでよいか？
- ・千田先生の問題提起には共感するところがある。
- ・近畿地方整備局は「はなやか関西」を、どれほど本気ですすめる気があるのかを聞きたい。

事務局

- ・25 年度テーマについては、今後、座長と相談して進める。